

社協の介護予防講座 第1回

介護予防のために様々な情報を提供し、皆さんの元氣な暮らしをサポートします。  
脳卒中について知っておきたいこと①



(引用書籍)



株式会社 法研  
自分で防ぐ・治す 脳梗塞  
(本体) 1,300円+税

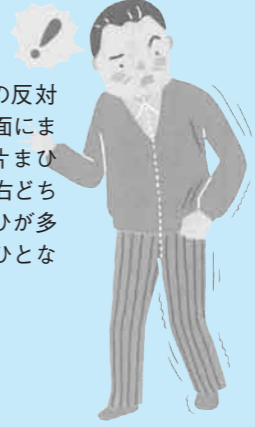
脳卒中の症状  
そのあとに残る後遺症

「脳卒中」とは、脳の血管が詰まったり、血管が破れて出血するなど、脳血管のトラブルにより、突然いろいろな症状が現れる状態すべてを指します。  
脳卒中は、人それぞれ違う状態で発生するので、症状の程度もさまざまです。

また、脳のどの部位が障害されたかによっても症状は変わります。右大脳の場合、左半身の運動、感覚、視野に障害が現れ、左側からだおおよび空間や、手に触れるものの形を



■意識障害  
意識清明の場合から昏睡状態まで程度はさまざま。はじめは意識がしっかりしていても、徐々にまたは突然悪化することもある。



■運動障害  
障害された脳の反対側の手足や顔面にまひがおこる。片まひとよばれる左右どちらかの半身まひが多いが、四肢まひとなることもある。



■感覚障害  
しびれ感、触った感覚がなくなる。



■言語障害  
言葉が出てこない、他人の言うことが理解できない、コミュニケーションがとれない状態の「失語症」、口や舌のまひにより発音がしにくくなる「構音障害」がおこる。



■視野の障害  
左右どちらか半分または4分の1だけ見えなくなる。



■感情の障害  
感情のコントロールができなくなり、悲しい、楽しいと感じていなくても泣く、笑うなどする。



■記憶障害  
昔のことは覚えていても最近のことはすぐに忘れる。

脳卒中、2つのタイプ  
「出血性」と「虚血性」に大きく分けられます

脳卒中は、それをもたらす血管障害により、「出血性脳卒中」と「虚血性脳卒中」の2つに大別されます。

出血性脳卒中は、脳の血管が破れて出血するためにおこります。出血した血液は「血腫」という血の固まりを作り、血腫のよる圧迫が強いほど、この障害はさらに広がります。その原因は、「脳出血（脳内出血）」と、「くも膜下出血」で、これらの名称は出血する場所の違いを示します。  
脳はぶよぶよとした柔らかい組織で、頭蓋骨という硬い骨でガードされています。頭蓋骨の中では、外側から硬膜、くも膜、軟膜と

いう3枚の膜が脳をおおい、保護しています。さらに、くも膜の内側は髄液という液体で満たされ、脳はその中に浮かぶように入っています。つまり、硬いケースの中に入った水に、柔らかい脳が浮いている状態なのです。  
その頭蓋骨の中でおこった出血を総称して「頭蓋内出血」といい、なかでも、脳みその中で出血したものを脳内出血（脳内出血）、くも膜と軟膜のあいだで出血したものをくも膜下出血というのです。

もうひとつが虚血性脳卒中。脳は血液から酸素や栄養をもらっています。しかし、脳の血管が詰まったり、流れが悪くなると、血液が十分に運ばれず、脳細胞が酸素不足、栄養不足になり部分的に障害されてしまいます。この虚血性脳卒中の代表が、「脳梗塞」です。脳梗塞は完全に血管が詰まり、脳細胞が部分的に死んでしまう状態です。



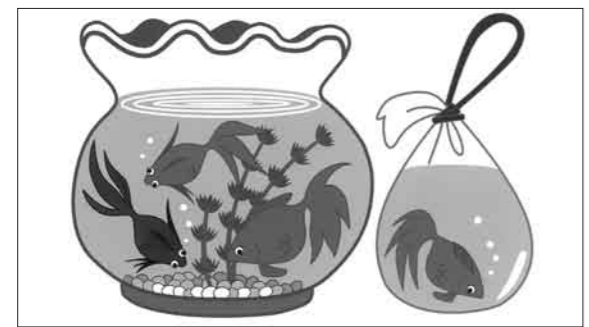
■出血性脳卒中  
脳の細い血管に長年、高い圧力がかかり続け、その部分がもろくなりふくれ上がる。もろくなった部分が破裂し、噴出した血液でまわりの脳細胞が破壊される。



■虚血性脳卒中  
脳の血管が詰まり、流れが悪くなると血液からもらっている酸素や栄養が脳に届かない。血管が完全に詰まると「脳梗塞」、一時的なら「一過性脳虚血発作」。

らくらく脳トレーニング

まちがいさがし



らくらく脳トレーニング 発行所/株一ツ橋書店

Q 左の絵と右の絵では、まちがいが5か所あります。見つけてください。



解答は13ページ→